

2 研究の実際

(5) 他教科と連携した授業実践

今年度は中学校社会科（公民的分野）の「消費生活と経済」の単元で、食育と関連させた授業を実践しました。授業形態はティーム・ティーチングで行い、T1は社会科担当教員、T2は家庭科担当教員と役割分担しました。

実態調査によると、中学校で食育を行う際に社会科と連携して行っているという回答は全体の約5%でした。食育と関連項目が多い社会科での授業実践例を提案することが、学校での取組の推進につながるのではないかと考えました。「各教科・領域における食育との関連項目一覧表（中学校）」では、今回の授業実践は下記の項目に該当します。

教科・領域	新学習指導要領	現行学習指導要領	目次大項目	目次小項目	キーワード
社会 (公民的分野)	B(1)市場の働きと経済 ア消費生活と経済活動の意義	(2)私たちと経済 ア市場の働きと経済 消費生活と経済活動の意義 市場経済の基本的な考え方	私たちの暮らしと経済	消費生活と経済	消費者主権 契約 契約自由の原則 家計 流通の合理化 自立した消費者 環境ラベル 消費者の権利 商業 広告 POS システム 食品表示 食品添加物 消費者問題 クーリング・オフ 製造物責任法 消費者契約法 消費者 基本法流通 プライベート・ブランド 資本主義経済 技術革新
	B(1)市場の働きと経済 B イ市場経済の基本的な考え方			価格の働きと金銭	市場経済 市場価格 需要(量) 供給(量) 均衡価格 独占寡占 独占禁止法 公正取引委員会 市場 物価 3R (リデュース・リユース・リサイクル) 循環型社会 環境基本法 省資源 省エネルギー
	D(2)よりよい社会を目指して	(4)イよりよい社会を目指して	地域社会と私たち	様々な国際問題	食料問題 飢餓 フェアトレード APEC TPP NAFTA ODA 地球温暖化 南北問題 南南問題 相互依存 再生可能エネルギー

「各教科・領域における食育との関連項目一覧表（中学校）」から抜粋

1 単元名 消費生活と経済

2 単元について

本単元は、中学校学習指導要領の公民的分野(2)「私たちと経済」の「ア市場の働きと経済」を取り上げたものである。身近な消費活動を基に、消費者の権利、契約、消費者問題、流通の役割について理解し、自分の日常生活と経済との関係に気付く、生徒にとっては身近な学習課題を設定することができる単元でもある。本時では、家庭科と関連させた食育の授業を展開し、家庭科担当教員とのTTを通して健康面からの商品選択の視点を持たせ、多面的に思考し判断する力を養う。

社会科としてのねらいは、消費生活や流通に関する事例を基に、経済活動における選択や、消費者の権利と自立、流通の役割について多面的・多角的に考え、その過程や結果を適切に表現させることである。

食育のねらいは、正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性について自ら判断できる能力を身に付けさせることである。

3 本時の目標

複数の資料から読み取った情報を基に、チョコレートを選択する理由を多面的・多角的に考え、自分の考えを表現することができる。

【社会的な思考・判断・表現】

4 本時の展開

学 習 活 動	教師の働き掛け (○)、生徒の発言 (・) と評価【】
<p>1 前時までの学習を復習する。</p>  <p>2 5種類のチョコレートの中から1つ選び、その理由も記入する(1回目)。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>A (流行性がある) …10人 B (季節限定のもの) …20人 C (添加物多く価格が安い) …5人 D (フェアトレード) …0人 E (添加物少なく価格が高い) …2人</p> </div> <p>3 購入する商品に関して必要な情報は、どこから入手できるかを考え、資料の読み取りを行う。</p> <p>4 5種類のチョコレートのうち、自分ならどれを選ぶか、考えて記入する(2回目)。</p>	<p>○電子黒板を活用して、チョコレートの流通の仕組みの概要を提示し、原料がどこから運ばれ、どのような過程で私たちの手元に届くのかを確認させた。(T1)</p> <p>○背後にある問題として「児童労働」、「環境破壊」、「貧困」などがあることを確認させた。(T1)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">カカオ農園の児童労働の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西アフリカ4カ国で、カカオ農園で数十万人の子どもが働き、そのうちの64%が14歳以下。 ・コートジボワールでの農園経営をする家庭の子ども(6~17歳)の3分の1は、一度も学校に行ったことがない。 ・他国から誘拐され奴隷として売られて強制的に働かされている子どももいる。 </div>  <p>○チョコレートの購入に関する事前アンケートを提示し、自分の意見との相違点を見付けるよう促した。(T1)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">事前アンケート</p> <p>Q：お菓子を購入・選択するとき気にしていることは何ですか？</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">お菓子に関するアンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お菓子の選択・購入で気になる点top5 1位 味(91%) 2位 価格(81%) 3位 パッケージ(44%) 3位 新商品・限定品(44%) 5位 内容量(38%) </div> </div> <p>○机間指導しながら、考察できない生徒については食品表示から分かる情報を読み取るよう指示をした。(T1・T2)</p> <p>○原材料、原産国、内容量などについて、家庭科の視点から健康面についての説明や、チョコレートの原料であるカカオの栽培についても補足説明した。(T2)</p>  <p>○選んだものが1回目と変わった生徒に理由を発表させた。(T1)</p>

- A (流行性がある) … 8 人
- B (季節限定のもの) … 23 人
- C (添加物多く価格が安い) … 0 人
- D (フェアトレード) … 0 人
- E (添加物少なく価格が高い) … 6 人

5 それぞれの条件を満たすためには、5種類のチョコレートのうち、どれを選べばよいかを考え、理由も記入する。

〈条件〉

- ・自分のため
- ・友達のため
- ・親のため
- ・環境のため

6 よりよい社会をつくるためのチョコレートの選び方についてまとめる。

7 今後、商品を選択するときに意識したいことをまとめ、発表する。



変わった理由

- ・価格だけで選んでいたけれど、それだけではだめだから。
- ・添加物の使用が少ないものが体に良いと思ったから。

○まず個人で考えさせ、その後グループで意見を交流させて、1つに絞らせた。(T1)

○グループの代表者に発表させた。(T1)

- ・親にはいつまでも元気でいてほしいから、価格は高くても食品添加物の少ないDのチョコレートが良いと思う。
- ・環境を考えるとゴミの量が少ないCの商品が良い。
- ・児童労働の問題が解消されるようにDのチョコレートを選びたい。

○社会貢献だけがよりよい社会を築くことにつながるのではないことや、条件で選ぶ基準があることを指摘した。(T1)

○今回はチョコレートを題材にして考えたが、他の商品でも同じことが言えること、一人一人の消費行動が消費者市民社会の実現につながることを補足説明した。(T1)

複数の資料から読み取った情報を基に、チョコレートを選択する理由を多面的・多角的に考え、自分の考えを表現している。 **【評価】**

○今後商品を選択するときに意識したいことを発表させた。(T1)

○自分の考えをまとめるに当たっては、他のグループの意見等も参考にしながら、個人として判断することを確認した。(T1)

- ・何か1つを重視して選ぶとデメリットがあるので、選ぶときには多くの視点を持って購入したい。
- ・値段は消費者にとっても大切だが、生産者にとっても大切なものなので、値段の見極めをしながら、体に良いものを選ぶようにしたい。

〈授業のまとめ〉

本授業においては、研究の仮説を基に、以下の3つの視点で考察しました。

- 「健康と環境の視点から食に関する知識が身に付いたか」
- 「自らの食生活に課題を持つことができたか」
- 「多面的・多角的な視点で思考し判断できる生徒が育ったか」

○「健康と環境の視点から食に関する知識が身に付いたか」について

健康面での知識については、家庭科担当教員がチョコレートの表示の見方や食品添加物について話し、環境面での知識については、社会科担当教員が、カカオ栽培時の農薬使用や森林伐採について話をしたことで理解させることができました。授業形態をTTにしたことで、生徒は健康と環境の2つの視点から、チョコレートを選ぶ際の知識を身に付けることができたと考えます。授業前のアンケートでは、お菓子を購入・選択するときに「社会や環境に良いもの」を購入すると回答した生徒が6%、「体や健康に良いもの」を購入すると回答した生徒が15%であったのに対し、授業後のアンケートでは、「社会や環境に良いもの」を購入したいと回答した生徒は41%、「体や健康に良いもの」を購入したいと回答した生徒は71%でした。アンケート結果から見ても、健康と環境の2つの視点からの知識を身に付けられたことが分かります。

○「自らの食生活に課題を持つことができたか」について

今回の授業では自分の食生活の中の食品を選ぶという行為について考える授業だったため、自分の食生活を振り返ることにより、食生活への関心は高めることはできましたが、課題を持たせるところまでは到達できませんでした。今後、生徒が食品を選ぶ際に、今日学んだことを振り返る手立てが必要であり、それを繰り返すことができれば、課題を持つきっかけになるだろうと考えます。

○「多面的・多角的な視点で思考し判断できる生徒が育ったか」について

- ・生徒のワークシートには以下のような記述がありました。

● 今後買い物をするときに意識したいことをまとめよう。

おいしかったけど、表示をしっかりと見て、社会にやさしい買い物をしようと思った。
じゆそよくをかける前とかけた後では考えがすっかり変わった。

資料 1 生徒のワークシートによる記述例①

● 今後買い物をするときに意識したいことをまとめよう。

商品を選ぶ時には、見た目が「けい」じゃなくて
原材料「けい」を見て、体に良い物を選んで「けい」。
人や自分も利益のあるような商品を選ぶ
ことを意識して買い物をしていきたいと思っ
ました。

資料 2 生徒のワークシートによる記述例②

● 今後買い物をするときに意識したいことをまとめよう。

その時の自分に合った商品を買おうと思いました。聞いた話
だけでなく、広告や表示といった正確な情報から、自分に
必要なものを買っていきこうと思いました。自分だけでなく、生
産者や環境にもより良くなるように自分からしていきたいと思
いました。

資料 3 生徒のワークシートによる記述例③

- ・上記の記述から分かることは、食品を選ぶ際に味や見た目、価格などの視点からのみ判断していたものが、授業を受けたことで、食品表示などの正確な情報や環境面の視点も含めて判断することができるようになったということです（資料 1、資料 2）。よって、多面的な視点での思考力や判断力は育ったと考えます。また、35 名中 2 名の生徒は生産者の視点での判断も大切だという記述をしていました（資料 2、資料 3）。中学生は消費者の立場ですので、消費者としての視点で思考することはできますが、生産者や販売者などの多角的な視点で思考することができるようにするためには、授業構成を工夫する必要があります。また、消費行動が少ない生徒にとっては、このように食品を選択するという授業を他教科と連携して継続して行い、食を選ぶ力が身に付くように実践を積み重ねていくことが大切だということも分かりました。
- ・お菓子を買うという自分の消費行動が社会づくりに影響を与えるのかという点については、授業前のアンケートでは「社会に影響を与えると思う」「どちらかと言えば影響を与えると思う」という回答が 41%であったのに対し、授業後のアンケートでは「社会に影響を与えると思う」「どちらかと言えば与えると思う」と回答した生徒が 73%に増えました。自分の消費行動が社会に与える影響について理解することができたと考えます。
- ・他教科の視点が入ることで、生徒の見方や考え方が広がることが分かったので、今後もこのような授業実践を積み重ねていくことが大切だと考えます。また、選ぶといってもいろいろな題材が考えられるため、今回はチョコレートでしたが他の題材でも選ばせる授業を行っていくことや、チョコレートを題材にして違うアプローチの方法を考案することも必要だと考えます。